【授業科目】公衆衛生学　　Public Health

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
工藤 安史	２年次 前　期	必　修	2	３０	講　義		巻末 掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／公衆衛生学の重要なテーマを一つ一つ学ぶ。具体的には、人口に関する統計、保健や医療に関連する統計、母子保健、感染症、食品衛生、環境保健、予防的保健行動、国際保健を学ぶ。 課題に対するフィードバック方法／授業中の確認テストおよびレポート課題、さらに学年末試験などに対して、講義中および掲示板を通して、学習方法について助言する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	①公衆衛生学で学ぶ様々な専門知識を自分の言葉で説明できるようになる。 ②データについて分析し、質の高い看護サービスを提供できるようになる。 ③予防医学の推進に必要な計画を立てられるようになる。 ④講義で学んだ知識を看護の現場で実際に応用できるようになる。
時間外学習に必要な 内容・時間	第1回から第15回の事前学習：講義レジメを配布しますので、レジメを予め読んで来てください。また、教科書で該当する箇所を読んできて下さい(目安となる事前学習の時間は、1回あたり２時間です）。 第１回から第 15 回の事後学習：講義で指導した内容を踏まえ、レジメプリントおよび教科書を中心に復習して下さい（目安となる事後学習の時間も１回あたり２時間です）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／１回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習 1 時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第１回　公衆衛生 　健康の定義、公衆衛生学の定義、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションなど 第2回から4回　人口に関連する統計 　人口静態統計と人口動態統計など 第5回から6回　保健や医療に関連する統計 　国民健康基礎調査や患者調査など 第7回　母子保健 　乳児死亡率などの指標、先天性代謝異常症のマス・スクリーニング、母子保健法など 第8回　感染症 　感染症法、予防接種法、ワクチンの種類、検疫法、性感染症など 第9回　食品衛生 　食中毒統計、食品衛生法、食中毒の種類とその対策など 第10回から11回　環境保健 　環境問題、公害、上水道と下水道、ごみ処理、ダイオキシンなど 第12回から第14回　予防的保健行動 　健康日本21、喫煙、飲酒、睡眠、栄養など 第15回　国際保健 　WHOの役割、国際機関、発展途上国における保健政策など 全て 工藤
評価方法 評価基準	筆記試験 100%で評価する。
教科書	公衆衛生　健康支援と社会保障制度　②　第15版、医学書院 国民衛生の動向(2024/2025年版)　厚生労働統計協会 参考書等：適時紹介する。
学生への 助言等	学校保健、職域保健、福祉政策などに関しては、「保健医療福祉行政論」で指導します。